

1 伊藤 宏実 議員（市民クラブさかい） 【一問一答】

（1）令和8年度産、コメ概算金の大幅な下落について

- ・令和8年度産米の生産者に支払われる概算金が大幅減となっている。また直近の情勢としては政府による備蓄米の買戻しも決定した。短期間に大きく変動する農政について、本市の農業、農家への影響をどのように受け止めているか。
- ・令和7年のコメ騒動により政府備蓄米が放出されたが、今回買い戻すことが決定した。しかし、今回の買戻しは15万トンと報道されており、備蓄米目標の100万トンにはまだ及ばない。このことに対する市の考えを伺いたい。
- ・コメは日本人の主食である。在庫や流通が安定的にバランスよく保たれ、消費者価格、生産者価格ともに適正な水準でなければならない。そのためには生産者が疲弊しない農業政策が必要と考えるが市の見解を伺いたい。

2 畑野 麻美子 議員（日本共産党議員団） 【一括】

（1）高齢者の難聴対策と補聴器購入への支援について

- ・集団健診で行う聴力検査は、なぜ60歳～78歳の偶数年齢なのか。
- ・聴力検査で難聴が分かった後、補聴器につなげる仕組みはあるのか。
- ・補聴器を必要としていても、費用が負担で購入できない人への支援はどうするのか。
- ・認知症予防・介護予防・社会参加の観点から、補聴器購入助成を実施すべきではないか。

（2）公立園における正規保育士の確保と職員体制、保育現場の職場環境について

①公立園における正規保育士の確保と職員体制について

- ・園ごとの正規・非正規職員の人数と割合はどのようになっているのか。
- ・過去5年間の正規・非正規の人数と割合はどうか。
- ・非正規職員の割合が高いことによる正規保育士の業務や責任の負担について、市はどのように認識しているのか。
- ・正規保育士の採用が進まない要因をどのように分析しているのか。
- ・今後、正規保育士を何人確保するのか、具体的な採用計画や数値目標はあるのか。

②保育士の専門性を尊重する職場体制について

- ・保育士が子どもの発達やクラスの状況を踏まえて行った専門的な判断を尊重し、保育に生かすため、どのような仕組みを設けているのか。
- ・園長など管理職と現場保育士との間で、日常的に相談・協議できる体制は十分確保されているのか。
- ・現場の保育士が判断に迷った場合や、管理職との意見が異なる場合に、安心して相談できる仕組みをどのように整えているのか。

③保育現場の職場環境について

- ・保育士が安心して働き、専門性を発揮できる職場環境を、今後どのように確保していくのか。
- ・園長などの管理職と現場職員との適切な役割分担、相談・協議体制、保護者対応を

含めた職場環境の改善について、今後どのように取り組んでいくのか。

3 松本 朗 議員（日本共産党議員団） 【一問一答】

（１）災害避難所の生活環境を抜本的に高める計画を求める

- ・災害避難所の生活環境対応のマニュアルは、スフィア基準との関係で、どういう計画か。
- ・飲料水は、広域支援などで対応できる（熊本地震、能登地震でも）が、生活用水の不足が長期に続いている。どう対応するのか。
震災井戸の設置は、既存の民間井戸の使用協定などの対策が必要ではないのか。少なくとも井戸は、上水道より、地震に強い。
- ・中学校体育館のエアコン設置に続いて、避難所に指定している小学校も計画的に整備を進めるべきではないのか。
- ・イタリアでは災害発生後４８時間以内にスフィア基準が満たされる環境整備の仕組みがある。市として、この基準に基づく整備計画の策定を求める。このためには、国・県の役割が大きい。市としての方向性を明確にすることが重要であると考えている。

（２）児童クラブにおける現状や長期休暇中の給食提供支援は

- ・児童クラブの一集団の適正規模は何名か。児童クラブの一単位の現行の規模は適正な状況と認識しているか、児童数が多く分割の必要があるクラブもあると認識しているか。
- ・よりよい児童クラブを運営するのに、児童クラブ支援員の役割は大きい。放課後児童支援員認定資格保有者の積極的な配置も求められる。支援員のうち、放課後指導支援員資格者が配置されなければならないが、全支援員のうちその割合は。また、支援員を計画的に増やすことにしているのか。
- ・また、資格はなくてもその能力を高め、役割を果たしていくために研修を積極的に行う仕組みが必要であるが、どう取り組んでいるか。
- ・市は、児童クラブの設備及び運営に関する基準を条例で定めているが、現状は全て満たされているか。満たされていないものがあるとすれば、具体的に答弁を求め、その対処方針を求める。
- ・長期休暇中の食事の提供を市として、支援する局面になっている。検討すべきではないか。